

国鉄千葉動力車労働組合



戦後の歴史も、敵が本気で攻めてきた時に労組内部から崩れ、分裂！敗北してきた。全く同じように 労組内部に敵と結託し、資本の意を受けた裏切り者、つまり、動労革マル松崎や国労旧主流派が登場してきたのである。

にして結束を固め決戦を闘いぬく。その過程で総連合を高崎・水戸、そして全国で総連合の火種を確実に作りだして行く、この二点を三月までにやりぬかなければならない。

聞いて 聞いて 聞いて 俺たちは鉄路に生きろ！

たしかに国鉄法案はとおった
三七兆円もの借金を解消するには、分割・民営しかないとした法案がとおった後、何か変わったか。借金は精算事業団が二三兆円、新会社に十四兆円と分けただけ。何も変わっていない。

今回の予算で清算事業団に二兆一千万の財政投与資金をつかうという。資金とは何か。いままでも国鉄に貸しつけていた借金と同じで、いざれサラ金地獄になる。分割・民営化とは、国鉄再建でも、国鉄改革でもない。国鉄労働者の首を切り、国鉄労働運動をたたきつぶし、国民の財産である国鉄資産を日本の大独占と結託した自民党の政治家が利権にむらがり奪い去る攻撃であつて、国鉄がかかえている問題はひとつ解決しないまま、先送りされたに過ぎず、この矛盾はますます大破綻にむけてつきすすんでいくことは必至である。

これが労組解体攻撃だ
だから国鉄労働者を屈服させ、国鉄労働運動を根底的にたたき、全体が総屈服し当局のいいなりになる状況をつくらないかぎり分割・民営化のもつている矛盾、理不尽性は決着がつくはずがない。

いま、振りわけを前にして部長・課長などが「どこどこに行きたい」とやっている。希望がかなえられないその判断基準は何か。労組をどれだけ分裂させたのか、どれだけ脱退させて、直営売店、広域配転にいくにしても労組をやめなにかぎり行かせない。ということを経い合うことにあるという。

そして、労組の中で自己保身にはしる組合幹部と結託して組織を分裂させる。



'86年荒波の中で大きく成長した家族会も、'87年本領発揮・大前進を誓い合つた。

この攻撃はうまくいったのか
敵の狙いは、四月一日になつたら、各組合が一企業一組合とし、その路線は全労協とする狙いをもち進めてきた。

しかし、動労千葉の不撓不屈の闘い、それに応えた国労の現場労働者の力によつて、ものの見事に粉碎されてしまった。新しい年を十万国鉄労働者が分割・民営化反対を掲げて年をこしてしまつた。

この意義は大きい。これは、中曽根・杉浦の攻撃の破綻性を明らかにしている。敵は、一月〜二月、動労千葉、国労破壊に一切合切をかけてくる。

われわれは、動労千葉の団結を、家族ぐるみ固め、職場生産点の役員を先頭

情勢は大きく動きはじめ
八七年、年が明けて新聞報道を見てみよ。日本の基幹産業で首切り、レイオフ。鉄鋼労連は早々とベースアップ要求しないことを決定。中曽根は「民主主義も変える」「三権分立も見直したい」、彼らの基盤の「農業」もたたきつぶそうとしている。

八七年以降は、労働者に対する総攻撃がはじまる。単に賃下げなどではなく退職金、年金、社会福祉にいたる問題まで戦後、労働者の闘いがそれなりに作りあげてきた制度的なものもぶち壊していく攻撃としてかけてくることは必至だ。

この状況の下で、国鉄労働運動をたたきつぶす以外にうまくいかない。

すべての労働運動が骨抜き状態の中で動労千葉の不撓不屈の闘いが、動労総連合の仲間の闘いが、まさに光沢をはなつ時代になると確信している。いま少数派だが、情勢は大きく動きはじめる時に、動労千葉は、日本労働運動の先導部隊として登場することは必至だ。千名の仲間が歯をくいしばって闘ってきた闘いが水泡に帰さないように先頭に立つて闘う。

ありがとうございました。がんばります！ 各界から寄せられたメッセージ、ご祝儀他

（順不同、敬称略） 東大阪電設部東小郎争委員会、北富士忍草母の会、大阪府高教組有志、群馬支援連青柳晃玄、総評全造船機械石川島分会委員長・佐藤芳夫、県会議員・小岩井清、弁護士・一瀬敬一、同・青井礼司、藤山在夫、衆議院議員・新村勝雄、同小川国彦、参議院議員・赤桐操、同系八重子、女性解放を闘うクローバーの会（大阪）、国労福知山有志、国労東京有志、国労女岡九州、国労長崎県有志、国労大阪有志、関東「障」害者解放委員会、（※本紙文中紹介者は略させていただきます）

（以下、つづく）